



花の会ニュース

2026年7月号
no.209

編集人/ 社会福祉法人 花の会 広報委員会 連絡先/ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9

TEL 072-692-2859 FAX 072-693-3603

★WEB <https://hananokai.info/>

★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

第43回

花の会総会・交流会 を開催しました

午前の部：花の会総会

午後の部：グループホーム『クローバー』

開所祝賀会・交流会



6月13日(土)、花の会総会・交流会を高槻城公園芸術文化劇場にて開催しました。

花の会総会では、年次報告・職員永年勤続表彰に加え、第三者委員の榊田由紀子さんに講演いただきました。

交流会では、メンバー有志の発表、各事業所の発表、HKU64(家族会有志)による歌やダンスの披露があり、楽しみました。

ご参加いただいた方、ありがとうございました。

今年度もみんなで力を合わせ、活動に取り組んでいきましょう。



「自他不二」を考える

ウクライナへの侵攻が続く中、イランへの攻撃があり、世界情勢の変化を身近に感じる時代となった。マスコミは声高なUSA大統領の一人がうってなスピーチを報じている。時代の転換が起きているのか考えさせられる。「平和のために」や「みんなが望んでいる」といったフレーズは、戦闘行為の正当化の枕詞と化している。

福祉の現場でもよく聞かれる「持続可能な制度」のため「広く浅く」する制度改定が進む。制度の利用制限や事業所の主體的取り組みは、どんな崖っぷちに追いやられている。しかし、不思議に枕詞が効いているのか、諦めがいいのか、税金の話でごまかされているのか、声が上がってこない。

先日、NHKの宗教番組「こころの時代」は「ファンタジーに秘められた宗教」をテーマにしたものだった。よく読まれる「星の王子様」や「ゲド戦記」が題材にされた。その中で、「自他不二」という仏教用語が紹介された。スペクトラム症なんかで障害理解の分野で、自分と他者が地つながりという考えが定着している。言葉の仏教的意味は、調べると興味深い。他者理解を、人間関係改善の問題につなげると「人に対して優しく」「寛容さが増す」と説かれているが、現世では受容できる現実が極めて乏しくなっている。メンバーも支援者も新自由主義だけではないが厳しい現実を生きている。これは個人的感想です。

仏教的に、あるいは日本的に、異なる生き方、感性に出会うとき、つながりが俯瞰された理想である、「自他不二」という幻想を受け入れると解決されるのだろうか。「内なる差別」を課題としてきた活動を振り返るとき、支援者間の価値観の相違に出会うとき、メンバーの自己表現のせなさを考えるとき、「共に生きる」社会、活動の場は理念理解のみで解決できるのだろうか。社会というファクターに包摂される中、ノーマライゼーション流の制度拡充だけで済まない問題が提示されている。

メンバーがいきいきと活動できる、支援者が仲良くケアを超えた支援を実現する、そのために何を課題とし、いつかの解決に結びつけられるのだろうか。

(やまだのかかし)

新生活、はじめました

いしかわ たくや
石川 卓弥さん

石川 卓弥さんのプロフィール

-  年齢：21歳。
-  所属：生活介護「第2共働舎花の会」メンバー。
グループホーム「クローバー」体験利用中。
-  花の会との関わり：支援学校を卒業後、花の会の生活介護「第2共働舎花の会」を利用開始。今年(2026年)から、グループホーム「クローバー」での体験利用に挑戦。
-  生育歴・あゆみ：1歳から3歳までタイ・バンコクで暮らす。帰国後は地域の療育施設への通所を経て、支援学校(小学部・中学部・高等部)を卒業。
-  好きなこと・趣味：YouTubeで音楽を聴くこと。また、お気に入りのキャラクターの鞆や水筒を大切にしている。



幼少期の卓弥さん

今回は、グループホーム「クローバー」の体験利用を開始し、「第2共働舎花の会」を利用して3年目の石川卓弥さんです。

部屋に招かれ、インタビューをさせていただきました。部屋では、布団の上でくつろぎ、タブレットでYouTubeを見ながら、そしてコーラを飲みながらのインタビュー。

Q 石川さん、新しく始まったグループホーム「クローバー」での生活はどうか？お部屋(自室)は気に入っていますか？

石川：気に入ってます。(居室の床を指しながら)ここがいいわ。

Q クローバーのご飯やお風呂はどうか？

石川：(ご飯は)おいしいっすよ。(おいしかったのは)肉です。

Q この間の(配食の)ハンバーグはどうでしたか？

石川：おいしかった。

Q 広いお風呂は気持ちいいですか？

石川：(お風呂)入ります。

Q 先日、広いお風呂と言われていましたが、家のお風呂と比べてどうですか？

石川：楽しいです。(お風呂は)好き好き。

Q 世話人とお話するのは楽しいですか？

石川：楽しいです。

Q 世話人から聞いたのですが、どんな冗談を言って世話人を笑わせているんですか？

石川：(笑顔で)わかりません。

世話人との秘密のようなので、触れずに話題を変えます。

Q 第2共働舎ではどのようなことをしていますか？

石川：(仕事は)いろいろ。普通にしていますよ。

Q いろいろって？

石川：(ショップやバザーで売る商品の)値付けです。

Q 石川さんが一番大好きな、お気に入りのキャラクターについて教えてください。お気に入りのバッグや水筒があるんですね？

石川：教えません。(ニヤリとしながら)わからへん。教えたくない。わからへんわ。
(集中してタブレットを操作しているので)



様子を見ていると)パワーパフガールズとかキャッチティニピン。アニメや。

Q YouTubeで見ているの？

石川： Perfumeとか。

Q Perfumeのどんなところがいいですか？

石川： 全部かな。

(石川さんから話を振ってくれました。)

石川： (コーラを一口飲みながら)
これうまいっすよ。コーラ
めっちゃうまいっすよ。



Q 冷蔵庫が部屋にありますけど、
中身は何ですか？

石川： コーラばかり。見せてあげるよ(と言って
冷蔵庫の中身を見せてくれました)。コーラ
飲む？

Q 石川さんの楽しみが減るので気持ちだけいただ
いておきます。

石川： 高槻市のJAバンクの前の図書館があるビ
ルで一緒にコーラを飲みませんか？

Q 市役所のあるビルで？

石川： そう。はちみつ好き？

Q はちみつと言えばプーさん？(石川さんがタブ
レットを見ていたので、連想して答えました)

石川： あの子は甘い好きやろ？はちみつ好き
やろ？コーラと一緒に飲みませんか？

Q 石川さんのコーラなので石川さんはコーラを美
味しく飲んでください。ところでコーラは1日に
1本飲んでるの？

石川： もちろん。

そのあとも、通院先の病院の話や周辺のお店が以
前は異なっていたことなど、いろいろお話してくれま
した。固有名詞がたくさん出てきたので割愛させて
いただきますが、高槻市内のいろいろな場所の話を
されるので、石川さんのこれまでの生活・興味あるこ
とが少しわかりました。

(お風呂の時間がやってきたため、一旦お風呂に入
る。)

Q お風呂、どうでしたか？

石川： 気持ちよかったっすよ。
見てくださいよ(とタブ
レットを徳野に渡す)。



Q さっきの話してた病院やん。

話をしながら、タブレットでお気に入りの飲食店など
を見せてくれました。

Q 朝はどのように過ごされていますか？

石川： 朝ごはん食べます。

Q 自宅からホームへと生活の場が変わったけれど、
どんな気持ちですか。

石川： ホームがゆっくりできるかな。

Q これからクローバーで、新しくやってみたいこと
や、挑戦したいことはありますか？例えばみん
なでご飯食べに行きたいとか、お出かけしたい
とか。

石川： 電車乗って万博記念公園に行きたい。

Q 9月か11月に祝日があるから皆で出かけられる
といいね。

石川： (YouTubeを見ながら)うん。

Q 子どもの頃にタイに住んでたって聞いたけどタイ
はどんなところでしたか？

石川： 楽しかったよ。ご飯食べに行ってくる。

(18時を過ぎたので)

Q 長時間ありがとう。



このインタビューに向けて、石川さんのプロフィール
やエール、クローバーの記録を読み込み、体験利用
が始まったところなのでどんなことを質問しようかと
考えて臨みました。

前準備はしたものの、石川さんのペースに飲ま
れてしまい、途中は雑談も入りましたが、楽しい時
間でした。

結果、石川さんの普段の様子を垣間見ることが
できました。自分のペースを保ちながらも気遣って
くれている様子もありました。動画閲覧など、本来
仕事を終え、楽しみの時間でしたが、1時間以上の
インタビューに応じてくれました。まだまだ慣れな
い部分もあると思いますが、クローバーで楽しく生
活していただければと思います。

ありがとうございました。



(取材：フラワーホーム 徳野 裕季)

～本人の自立と成長を遠くから見守って～

いづみ ゆきこ
泉 幸子さん

泉 幸子さんのプロフィール

- お子様は4兄弟であり、ご本人は三男。一番下に妹さんがおられます。ご兄弟にも障害があり。お母様は一人で子育てに励んでおられます。
- ^{だいき}大輝さんが高槻市の生活介護事業所に通所されていた時には毎朝歩いて本人に同行されていました。

泉 大輝さんのプロフィール

- 大阪府茨木市にて出生。
- 小学二年まで茨木市の小学校、三年から高槻市の小学校に通っていた。中学から支援学校へ。
- 高等部三年に数か所の生活介護事業所への実習に参加。その中から本人は高槻市の作業所への通所を開始。2025年10月から、泉南市にあるグループホームの利用を開始。それに伴い、生活介護事業所も同市に変更となっている。

今回は泉 大輝さんのお母様、泉 幸子さんにお話を伺いました。

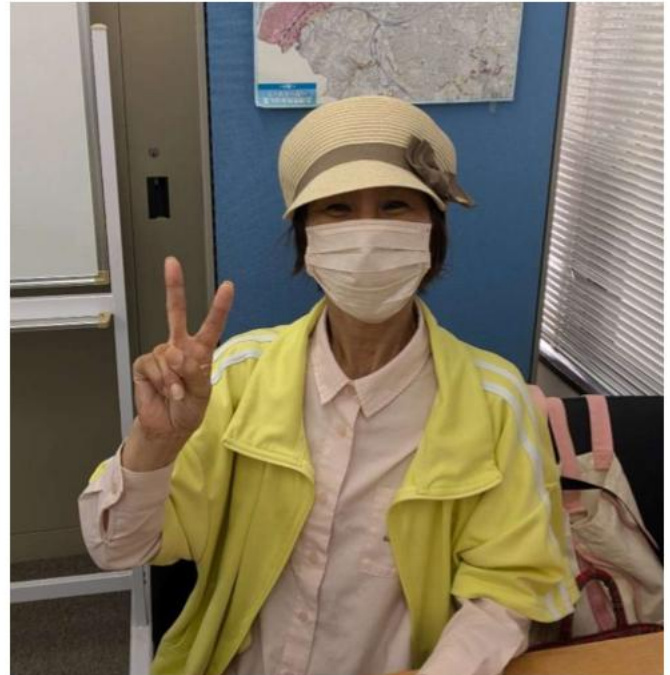
Q はじめに、計画相談にスキップをお選びになった理由や経緯をお伺いできますか？

泉： 詳しくは覚えていないですが、「何かあった時に相談に乗ってもらうために、相談支援専門員に頼った方がいい」と誰かにアドバイスを受けて…。それでその方にスキップさんを紹介してもらったんだと思います。

その時はちょうど、支援学校を卒業して作業所で体験というか見学があった時期でした。

Q スキップとの関係は長いですか？

泉： そうですね。ただ、初めの相談員の方から何代か変わって、今の担当者に落ち着いています。



Q 過去を通して、相談員の印象はいかがでしたか？

泉： 相談員が変わるたびに、大ちゃんは懐いていました。普通なら人見知りするのに。本人はそもそも結構人見知りです。

今の相談員については、作業所に来られた時に、持っておられたアイテムを本人が見て『これ見せて』と言ったらしいです。それ以来、とても懐くようになって、『ママ、あの人がいつ来るの？』→『今日は来ないよ』→『うーん…』と言うくらい、すごく懐いていました。

Q スキップを利用して良かったと思う点を教えてください。

泉： 本人が『良かった』と言っていることに尽きます。相談員は、すごく親身でとてもよくしてくれます。何でも頼りになりますし、相談にも乗ってくれます。短期入所の日数を短期入所の事業所と調整をすることが有ったのですが、相談に乗ってくれて、調整などの対応をしてくれました。大輝にとってはそれが良かったのだと思います。

Q 今までは、大輝さんのご自宅に住んでおられた時の話しでした。今は大輝さんはグループホームをご利用されていますね。利用のきっかけは何でしたか？ ご自宅ですっと過ごす選択肢もあったと思います。

泉： 本人は以前からグループホームでの生活を希望していました。家庭では本人にとって過ごしづら



さを感じていたようです。父と息子とはいえ男同士なので、いろいろとあったかだと思います…。食事を別の場所で取ることもありました。

そのような経験から、「早くグループホームに入りたい」と周囲にも話していたようです。一方で、母親と離れることには寂しさも感じていた様子でしたが、「早く新しい生活を始めたい」という思いを抱いていました。

Q グループホームを選んだきっかけは何ですか？

泉： 次男が利用しているグループホームの元世話人の方が独立をするとのことでした。その世話人さん（現在はグループホームの管理者）は、以前から次男のことを気にかけてくださっていました。

『新しくグループホームを作る』とのお話が来たのがきっかけです。

大輝と一緒に見学に行ったら、本人はとても気に入ってしまって…。そこで『もしできたら一度体験入所させて、良ければ』というお話となり、8月頃から体験入所をして10月にはもう入所しました。

Q 大輝さんが離れることについて、お母様ご自身に不安や寂しさはありましたか？

泉： 不安というか、もう寂しかったです。迷いもありましたし、ずっと一緒にいたので。…やっぱり寂しいですね。

Q 離れて暮らすようになってから1年ほど経ちますが、大輝さんが成長したと感じることはありますか？

泉： この前会った時、顔つきが変わっていました。家にいた時と全然雰囲気違って、ふっくらしていました。身長も伸びたんじゃないかな。ひと回り成長したなと思って、グループホームに入って良かったなと思いました。

Q 何か成長を感じるエピソードはありますか？

泉： 絵を描くようになったことでしょうか。家にいた頃は絵を描かなかったのですが、（グループホームで描いた）この絵をホームの管理者さんがLINEで送ってくれました。（写真を見せながら）この絵、展示会に飾られて賞をもらったんです。

Q 大輝さんの生活面で変化はありますか？

泉： 家ではトイレに座っていられなかったんです。それがグループホームでは『10分間便座に座る』という約束を世話人の方として、それができるようになりました。家ではできなかったのに…。今では褒められたりするので楽しみになっているようです。

Q グループホームは本人の体調面を熱心に支援してくださっていますよね。

泉： 本人は、以前よく「お腹が痛い」と言っていたんですが、今は言わなくなったそうです。グループホー

ムを利用して、本当に良かったと思います。

Q 大輝さんが『こうなったらいいな』とか『こういう成長をして欲しいな』と思うところがありますか？

泉： まあ、普通で。普通、普通。それこそ“普通に幸せに暮らしてくれればいいかな”という感じです。

Q 最後に、今、お子さんの将来について悩み、「グループホームを利用した方がいいのだろうか」と迷っているご家族へ、メッセージがあればお願いします。

泉： 親はいずれ子どもより先にいなくなります。早いか遅いかのどっちかです。

だからこそ、グループホームで生活することは、本人にとっても家族にとっても安心につながると思います。

最初は不安もあると思いますが、困ったことがあればグループホームの世話人や相談支援専門員など、さまざまな支援者に相談できます。一人で抱え込む必要はありません。

親が元気なうちから少しずつ新しい生活に慣れていくことで、本人も家族も安心して将来を迎えられと思います。悩んでいる方には、一度相談してみることをお勧めしたいです。

編集後記

今回のインタビューでは、グループホームでの生活が始まるまでのご家族の葛藤や不安、そして新しい生活の中で見られたご本人の成長について、お話を伺うことができました。

「普通に幸せに暮らしてくれればいい」という泉さんの言葉は、多くのご家族に共通する願いではないでしょうか。その願いは、一人だけで支えられるものではなく、人と人とのつながりの中で育まれていくものなのだ、今回のお話を通して改めて感じました。

グループホームは、すべての方にとって唯一の選択肢ではありません。しかし、ご本人やご家族にとって将来を考える一つの選択肢にはなるのではないかと思います。

今回のお話が、お子様やご家族様の将来や暮らしについて考えるきっかけとなり、「まずは相談してみよう」と思っていただけの機会になれば幸いです。

（取材：相談支援センタースキップ 浅井 晶勝）



職員の声 支援への思い

おしほ
尾芝 さちよ さん

尾芝 さちよさんのプロフィール

🌱 2024年9月、ひらかたくすの木 入職。

🌱 現在も生活支援のワーカーとしてご活躍されています。

🌱 休日のご家族でお出かけすることが多いそうです。

🌱 夏の一押しスポットは海！
尾芝さんご自身が海が好きで、ぷかぷか浮いているのが良いとのこと。



🌱 ストレス発散方法はカラオケだとか！



今回は、ひらかたくすの木で支援員をされています尾芝 さちよさんにお話を伺いました。

Q 入職のきっかけを教えてください。

尾芝：ここに来る前は、一年とちょっと放デイ(放課後等デイサービス)で働いていたんです。仕事は好きだったんですが、いろいろあって辞めてしまっ

次の仕事も、なんかそういう、人と関わる仕事がいいなと思って探していたところ、ひらかたくすの木の求人を見つけて応募した、という流れです。

実は他の児童関係の仕事も同時期に面接に行っていて、採用の連絡をいただいたんですが、通いやすさなどを比べて花の会を選んだ、という感じです。

障害福祉は、放デイに行くまで仕事としては全くしたことがなかったんです。でも小学校の時にも特別支援学級の子が自分の周りにいて…、どんなことを考えたりしてるのかな…という興味はありました。それが巡り巡って…って感じですかね。

Q 尾芝さんから見て、ひらかたくすの木(以降、「くすの木」と表記)はどんな職場ですか？

尾芝：ものすごくいい職場だと思ってます。本当に、選んで良かったなって。あったかいというか、人間同士なんで、たまにいざこざもありますけど(笑)、みんな優しいし、居心地がいい職場だと思ってます。



今までの仕事は、「もう行きたくないな…」って思う日も結構あったんですけど、くすの木は行ったら元気になるというか。身体がしんどいなっていう時はもちろんあるんですけど、精神面のしんどさってというのは、今は全然ないですね。ありがたいです。

Q 尾芝さんは、メンバーをどういう風に見ていますか？

尾芝：どういう風に…、難しい質問だなあって思いました。毎日顔を合わせる、仕事仲間かなあ。家族とか友達じゃないし。やっぱり「仲間」という感じがしっくりくるかなと思います。だからこそ、自分が上から指導する、みたいな感じには絶対ならないようにしたいっていうのは日々思っています。

Q 大変だったなって思うのはどんなことですか？

尾芝：うーん…、毎日いろいろ大変ではあるんですけど…(笑)。

やっぱりメンバーと体力の差があるから…、な

んていうか、突然わっと何かが起こった時とかに、力がもう全く及ばなくて、どうしょ…ってなるときはありますね。それとか、メンバーが「今日はもうこの作業やらない！」ってなる時とか…。

他の職員やったら、もっと上手い伝え方とか、メンバーの気持ちを上げていったりとかができるのに私は全然うまくできないから、「向いてないかな〜」と落ち込んだりすることもあります。「勉強が足りひんな〜」っていうのも思います。

くすの木には、メンバーへの関わり方がすごく上手な職員がいっぱいいるので、いろんな人のやり方を見て学んでいます。楽しいことに巻き込んでいく、みたいなことが上手になっていきたいな、と思っています。

Q 仕事で、やりがいを感じたできごととはありますか？

尾芝：くすの木で畑をしてるんですけど、私は畑・しいたけの担当なんです。しいたけとか、野菜の成長を見るのは楽しいです。



メンバーとの関わりだと、例えば、やり取りがしにくかった人にちょっと自分の思いが伝わったんだろうなっていうのを感じた時とかは、やっぱり嬉しいですね。具体例は思いつかないんですけど、ほんまに生活の中で急にコミュニケーションができたり、何気ないところで意思疎通できたなと感じる時があります。不思議ですね。なんで今？なんで今日？みたいな…。

あと、最近のことなんですけど、1対1で買い物に出るのに少し勇気があるかな〜っていうメンバーと、1対1で一緒に買い物に行けたんですよ。そんな自分なりのチャレンジがうまくいった時に「よっしゃー！」って、楽しいとかやりがいにつながります。

Q 支援の中で大切にしていることはありますか？

尾芝：やっぱり、上から目線にならないように常に意識しています。

あとは、メンバーとワーカーは支援する側・される側ではなく『対等』、っていうのが花の会の基本的な考えとしてあるじゃないですか。これを分かっているつつも、やっぱりちょっと可愛い部分とかが見えると、子ども扱いじゃないけど…、そういう気持ち

ちになってしまう時は正直あります。そういう時にも、「あ、気をつけないと！」と思います。

Q 最後に、今後の目標を教えてください。

尾芝：うーん…なんでしょうね。うっかりが多いので、もうちょっとしっかりしていきたいですね。メンバーからもワーカーからも頼ってもらえるようになっていかないと、と思っています。



編集後記

メンバーのことをどう見ているか、という質問に、「仕事仲間」と表現された言葉が、とても印象に残りました。「上から目線にならないようにしたい」「対等な関係でありたい」という言葉の端々から、メンバー一人ひとりと真摯に向き合おうとする思いが伝わってきました。

尾芝さんとはZOOMでインタビューをしていたのですが、途中でひらかたぐすの木の職員の皆さんが画面に登場して手を振ってくださるという一幕もありました。

尾芝さんがおっしゃっていた通り、仲の良いチームだな〜とほっこりしたインタビューとなりました。



(取材:田淵 彩子)

『くすの木カフェ』 オープン

「ひらかた くすの木」の事業所内に、カフェがオープンしました♪ 今は水曜日のみの営業ですが、是非お立ち寄りください😊



住所：枚方市津田東町 2-35-5
電話：072-858-7353





日中活動支援の報告 生活介護

新メンバーを紹介します

加藤 結さん



今年の3月に高槻支援学校を卒業し、4月から共働舎花の会A班で活動しています。

初めて登所した日は少し緊張して、他のメンバーの様子をじっくり見ているようでしたが、徐々に日々の生活に慣れてきて、毎日笑顔で登所しています。人と関わることが大好きで、満面の笑顔を浮かべながら、ワーカーやメンバーを見つめていることが多いです。

杉田 知樹さん



4月から第2共働舎花の会C班の仲間になりました。

花の会での活動場所や人にも慣れはじめ、にこやかな表情が見られるようになりました。

いつも花の会のランチや送迎バスを楽しみにしており、ワーカーに確認するのが日課となっています。作業は値付けや荷物運びを頑張っており取り組んでいます。

谷 彩花さん



4月から共働舎花の会D班で活動しています。

音楽を聞くことや歌うことが好きで、班の場所で好きな言葉を口ずさんで突然、椅子から立ち上がりスクワットをする(笑)とってもおちゃめな女性です。

リラックスタイムでは、聞きたい曲の題名を一語一句、間違わずに書いてリクエストしています。手先が器用で紙漉き作業では、真剣な眼差しで紙を漉く姿勢は素敵です。

月見台畑で、しいたけの原木栽培を始めました！

今年からの新たな生産活動として、月見台畑にて「しいたけの原木栽培」に挑戦しています。

メンバーは、ドリルでの穴開けと、種駒の打ち込みをしました。ドリル作業は「穴が浅すぎても深すぎてもいけない」という絶妙な加減が必要で難しかったと思いますが、みんな集中して取り組んでいました。種駒をハンマーで打ち付ける作業にみんなでワイワイ

と楽しく進めることができました。

今回の原木、種駒、そして作業の指導まで、月見台畑の手伝いをしてくださっているご近所の石津さんがすべて準備をしてくださいました。石津さん、温かいサポートを本当にありがとうございました！

初めてのことでばかりで手探りのスタートでしたが、みんなで力を合わせて無事に植菌が完了しました。収穫できるのはなんと「来年」とのこと！今からみんなで大収穫の日を楽しみに、大切に育てていきます。（共働舎花の会 藤井 智之）





児童通所支援の報告



～花の会運動会で、児童部門、今年も優勝しました♪

あじさいクラブ、さくらクラブ、あさがおクラブの子ども達、ご家族が今年も『花の会運動会』に参加しました。大人の中に子ども達が参加することで毎年ほのぼのとした光景となっています。子ども達は真剣で1番に

なると喜び、負けると悔しがり、元気いっぱい競技に参加しています。そんな子ども達の様子を見て、成人の事業所のご家族も、我が子の昔のことを思い出していることでしょう。

さまざまな世代が楽しめる運動会って良いですね。競技の中では、今年も学生ボランティアさんが助っ人に入ってくれた綱引きと、全走者を子ども達で構成した団対抗リレーで見事優勝！することができました(毎年、団体競技の優勝をかささらって申し訳ないです(笑))。運動会への児童部門の参加も数年が経過してすっかり定着してきたように感じます。まだ参加されていない方、ぜひ運動会でお会いしましょう！
(あさがおクラブ 山口 昌亮)



『虐待防止研修』を受講して

～ 支援者として、支援や関わりを考える ～

先日、行政主催の支援講座『児童虐待対応の基礎理解』に参加しました。通告の流れや関係機関の役割など、組織として知っておくべき実務的な内容を学ぶ貴重な機会でした。一方で、マニュアル的な解説にとどまり、私たちが日々直面する「現場の関わり」の難しさの核心にまでは届いていないような、もどかしさも残りました。



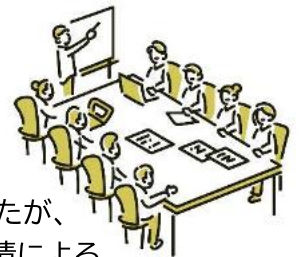
そんな折、毎年12月に高槻市役所で開催される『福祉展』のテーマが、今年も「合理的配慮」である話を思い出しました。合理的配慮、虐待や権利擁護について考える時、あるご家族から「この動画をどう思いますか？」と尋ねられました。大阪府の啓発動画『合理的配慮、始めました ～大阪の人情で広げる共生社会～』です。皆さんはこの動画を見てどう思われたでしょうか。福祉の世界は長らく「お世話をしてあげる」というパターンリズム(強者の施し)に依存してきたと思います。しかし、この「優しさ」をベースにした関係性は、実はとても危うい一面が見え隠れしているのではないのでしょうか。「これだけやってあげているのに」という思いが支援者の側に芽生えた瞬間、人情は裏返られたという感情に。また身勝手な怒りやコントロール欲、すなわち

虐待の動機へと変貌してしまいます。

合理的配慮を例に出しましたが、支援や人と人の関わりは、人情による「恵み」ではなく、相手の尊厳を守るための対等な関わりの中にこそあるのではないのでしょうか。

現在行われている虐待防止研修の多くは、「これをしてはいけない」という禁止事項のチェックや、感情をコントロールするといった技術的な話に重きが置かれているように思います。しかし、それだけでは、「通報されないための防衛」になってしまい、目の前のメンバーとの関係性を豊かにすることにはつながりません。真の虐待防止とは、国連障害者権利委員会が求める「人権モデル」を学び、支援の本質を「管理」から「対等なパートナーシップ」へと転換していくことにあり、相手を「守られる存在」としてだけ見るのではなく、一人の「権利の主体」として尊重し、どのような関係性を築いていくか。日々の何気ない声かけや関わり方の在り方を、みんなで問い直し続けていくこと。それこそが、今、現場に求められている権利擁護の実践なのだと感じました。いかがでしょうか。

(さくらクラブ 平田 昌史)





地域生活支援の報告

はいびすかす

去年の夏を振り返って



はや、1年前の今ごろ、2025年7月に災難がやってくる予知夢漫画が大きな社会現象となりました。普段から移動支援(ガイド)を担っている私にとって現地で被災してしまったら…、そんな不安が生じてしまい、遠方ガイドが怖いと感じました。改めて真剣に避難時をイメージして、ガイド時の所持品を見直しました。結局、何も起こらず過ぎ去ってしまいましたが、その作品は予知夢より防災啓発の目的が強調されたようです。あの時、用意した防災グッズは、ガイドヘルプで用いている荷物と共通点が多く、今でも活用しています。普段私がガイド先で一番使っているものはティッシュ(手拭き)、レジ袋、飴です。備えはありますが、防災グッズを使わなくて済む、安全に過ごせる日常が続いてほしいと願うばかりです。今後も避難時のことを少し意識しながら、



持ち物の確認を行い、安心してガイドを行えるように心がけたいと思います。

これから暑い季節を迎えます。暑さ対策も欠かせません。支援中は炎天下での移動を伴い、一人ひとりに応じたアプローチが望まれます。時として、アクティブなメンバーは、暑さや痛さを強がられることがあります。表情が優れず声かけすると、何度も「大丈夫」と繰り返えされることもありました。(周囲への配慮、予定が崩れる不安、機能低下などさまざまな)不調を隠してしまい、本当に大丈夫なのか冷静な判断が求められました。

今年も熱中症対策を意識した外出計画となりますが、ご協力くださるようお願いいたします。「行きたい」「楽しかった」の言葉が、いつも励みとなっております。



(サポートセンターはいびすかす 谷口 由美子)

レスパイト

～ 行く人 来る人 ～

皆さんを応援しています！

6月に津之江北町に新しいグループホームができました。レスパイトを利用していたメンバーのうち4人がこのホームに入居されることになりました。



また、5月以降に他法人のグループホームに入居した方も3名います。制度上、グループホームに入居すると短期入所・日中一時支援は利用できなくなりますので、7名の方がレスパイトを卒業されることになりました。長年関わってきたスタッフとしては寂しい気持ちもありますが、メンバーの新しい生活を応援したいと思います。

津之江北町の開所では、初めてグループホームを利用するメンバーと、同じく初めてのメンバーを迎える世話人さんがさぞ緊張しているのではないかと気になり、最初の1週間レスパイトのスタッフをホームに派遣して様子を見に行ってきました。真新しいホーム

は広々していて住み心地はよさそうです。初めての利用の日、メンバーはどんな様子で帰ってくるかと少しドキドキしていましたが、レスパイトで見慣れた様子と変わりなく、拍子抜けすると同時に、安心もしました。もしかしたら内心では緊張もあったのかもしれませんが、レスパイトの職員が顔を出したことで安心してもらっていたのならよかったのかなとも思います。

今回ホームへ派遣した2人のスタッフは、どちらもグループホームは未経験だったので、生活の場としてのホームの在り方も勉強になったと思います。在宅生活の時にはレスパイト、その先のグループホームへとメンバーの長い人生をサポートする流れの中に我々の役割があることを改めて実感しています。



(花の会短期入所事業部 橋本 好司)





就労相談支援の報告

新入職員・異動職員を紹介します

渡邊 朋幸さん



4月に「第2共働舎花の会」から異動し、「第3共働舎花の会」の管理者に着任いたしました。

これまで14年間、生活介護に所属していました。

現在は就労継続支援B型という新たな分野で日々邁進しております。

メンバーやワーカーのみんなに教わりながら、まずはコミュニケーションを大切に、一人ひとりが安心して自分らしく働ける環境づくりに努めます。未熟者ですが、精一杯精進します！

佐藤 里香さん



4月より「ワークたんぽぽ」に入職しました。

実習でお世話になった際、メンバー一人ひとりに寄り添う職員の皆さんの姿や、全体の温かい雰囲気の魅力を感じ、この職場で働きたいと思い入職しました。

まだ分からないことや慣れないことも多いですが、先輩方に教えていただきながら、日々仕事を覚えています。メンバーとの関わりを大切に、安心して過ごしていただけるよう努めています。

一日でも早く信頼される職員になれるよう、学ぶ姿勢を忘れず努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします！

日帰り旅行、楽しいひと時を過ごしました



5月21日(木)、日帰り旅行にてニフレル(エキスポシティ)に行ってきました！ 雨の中のお出かけとなりましたが、皆さん元気いっぱい！ 出発前からテンションが高くなっている方、雨模様になんとか機嫌斜めな方とそれぞれでいざ出発！

ニフレルでは興味津々で動物や魚などを観察したり、来たことのある方は思い出話をしてくれたり、一部エリアでは猿や鳥が放し飼いになっていて近く

に来てくれる鳥のそばに寄るものの少し怖がっていたり。

昼食はバイキングレストランへ。思い思いに料理を手に取り、満喫しました。自分でワッフルやクレープを作

れるコーナーがあり、自分で作ったデザートは最高！

午後からはエキスポシティを散策。「一人一回ゲームコーナーにてUFOキャッチャーが無料でできる」とのことで気合いを入れて挑戦。「おいしい！」の音があちらこちらで響いていました。残念ながらゲットできた人はいませんでしたが、気持ちを新たに2班(お

土産を見に行く班、キャラクターショップを見る班)に分かれて散策。お目当てのお店を巡り、買い物を楽しみました。雨でもあり、疲れた様子を見せる方が多く休憩をとつつの行動でしたが、沢山の笑顔も見られ楽しい1日を過ごすことができました。

次はどこに行こうかな？ 今から楽しみです！ (希望の家 田中 弥生)





法人の報告

社会福祉法人 花の会 2025年度の事業報告

「共に学び、共に働き、共に生きる」の理念の実現に向け、2025年度もさまざまな取り組みを行いました。

グループホームの整備を進めるとともに、「たんぽぽ亭」の移転・リニューアルや「ワークたんぽぽ」の改修、「共働舎花の会」の隣地の整備を行い、安全で快適な環境づくりに努めました。また、「就労支援センターフォルツァ」の事業再編や各事業所の加算の取得など、将来を見据えた基盤整備にも取り組みました。



支援の質を高めるため、エピソード記述などの職員研修や第三者評価を実施するとともに、職員の処遇改善や外国人職員の受け入れを進め、安定した支援体制の構築にも力

を注ぎました。また、ICTを活用した勤怠管理の適応拡大など、業務の効率化を進めることで、職員が支援により多くの時間を充てられる環境づくりを進めています。

地域とのつながりを深める取り組みとしては、花の会バザーの開催や富田ジャズストリートへの参加、子ども食堂や子育て支援事業などを継続し、多くの地域の皆さまと交流する機会を持つことができました。

今後も、メンバー・ご家族・地域の皆さまとのつながりを大切にしながら、地域に必要とされ、信頼される法人を目指して、努めてまいります。今後とも温かいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。（業務執行理事 成瀬 修）



法人単位事業活動計算書

（自）2025年4月1日（至）2026年3月31日（単位：円）



勘定科目			当年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部	収益	サービス活動収益計（１）	1,521,676,819	1,370,420,722	151,256,097
	費用	サービス活動費用計（２）	1,430,914,052	1,320,610,220	110,303,832
	サービス活動増減差額（３）＝（１）－（２）		90,762,767	49,810,502	40,952,265
サービス活動外増減の部	収益	サービス活動外収益計（４）	19,674,661	24,720,530	△ 5,045,869
	費用	サービス活動外費用計（５）	12,282,216	13,423,364	△ 1,141,148
	サービス活動外増減差額（６）＝（４）－（５）		7,392,445	11,297,166	△ 3,904,721
経常増減差額（７）＝（３）＋（６）			98,155,212	61,107,668	37,047,544
特別増減の部	収益	特別収益計（８）	21,701,265	11,483,476	10,217,789
	費用	特別費用計（９）	6,865,038	7,530,866	△ 665,828
	特別増減差額（１０）＝（８）－（９）		14,836,227	3,952,610	10,883,617
当期活動増減差額（１１）＝（７）＋（１０）			112,991,439	65,060,278	47,931,161
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額（１２）		552,575,053	491,521,775	61,053,278
	当期末繰越活動増減差額（１３）＝（１１）＋（１２）		665,566,492	556,582,053	108,984,439
	基本金取崩額（１４）		0	0	0
	その他の積立金取崩額（１５）		24,460,000	1,700,000	22,760,000
	その他の積立金積立額（１６）		5,742,000	5,707,000	35,000
	次期繰越活動増減差額（１７）＝（１３）＋（１４）＋（１５）－（１６）		684,284,492	552,575,053	131,709,439

2000年12月12日第三種郵便物承認 毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行
発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町2・2 東興ビル4階 定価100円